



© 26 SANRIO CO., LTD. APPR. NO. L663829

NIE
教育に
新聞を

4

小学1・2年生向け

トットちゃんの15つぶのだいず

黒柳 徹子原案 柏 葉幸子文 松本春野絵

皆さんは、毎日ご飯をどれくらい食べていますか。もし、1日に食べられるものが、大豆15つぶだけになったらどうしますか。日本が戦争をしていたころ、食べ物がどんどん少なくなりました。大豆15つぶは、小学生だったトットちゃんの1日分の食べ物です。朝、学校に行くとき、ママは煎った大豆15つぶを封筒



に入れて、トットちゃんに渡しました。「よく考えて食べるのよ」と言われたトットちゃんのおなかはいつもペコペコです。空襲があったら、どうなるかわかりません。それなら今のうちに食べてしまおうか、それとも家で食べる分をとっておこうか、とあれこれ悩み続けます。さて、トットちゃんはどうしたのでしょうか。(講談社 1760円)

小学3・4年生向け

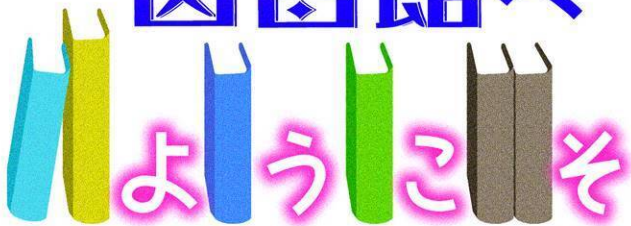
1945年8月6日あさ8時15分、わたしは

原爆を体験した子どもたち言葉 いわさきちひろ絵

1945年8月6日の朝8時15分、広島に原子爆弾(原爆)が落とされました。原爆によって、広島では約14万人が亡くなりました。その後、子どもたちは、自分たちが体験したことを作文に書きました。4歳だった男の子は、原爆の強い光を、目に針が刺さったようだったと書いています。小学3年生だった女の子は、自分と同じくらいの子が、体中のやけどやけがで苦しみ、亡くなっていく様子を見ました。また、5歳の時に母親やきょうだいを次々に失ったことを書いた女の子もいます。子どもたちが見たことや感じたことにふれながら、平和について考えてみましょう。(童心社 1870円)



図書館へ



戦争中子どもたちの暮らしは？

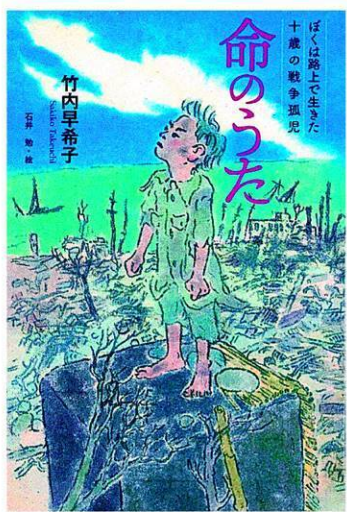
今から80年以上前、日本は、アメリカやイギリスなどの国々と戦争をしていました。戦争によって日本中の人々の命や暮らしが苦しくなっていました。その頃の子どもたちは、どのような毎日を過ごしていたのでしょうか。(山梨県立図書館 小林 幸代) 毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

命のうた

竹内早希子著 石井 勉 絵

「戦争孤児」は、戦争で親や家族をなくした子どもたちのことです。日本では、第2次世界大戦で、12万人以上が戦争孤児になったといわれています。山田清一郎さんもその一人でした。山田さんは、戦争孤児だったことを、60歳で定年退職するまでの長い間、人に話せなかったそうです。いったいなぜだったのでしょうか。この本には、山田さんが戦争孤児になってから大人になるまでのことが書かれています。神戸で生まれた山田さんは、1945年の空襲で両親を亡くし、10歳でひとりぼっちになりました。食べる物も安心して眠れる家もなく、助けてくれる大人もいませんでした。戦争によって長い間苦しみ続けた戦争孤児の声に、耳を傾けてください。(童心社 1540円)



中学生向け

いま、日本は戦争をしている

堀川理万子絵と文

この本は、太平洋戦争当時、子どもだった17人へのインタビューをもとに作られています。日本各地で見たことや感じたことを、当時の子どもたちが「あの日」の出来事として語ります。山梨での体験として、1945年7月の甲府空襲が紹介されています。8歳だった少年は、母や叔父と一緒に家の近くの高台から空襲で燃える甲府の町を見つめました。少年の目には「まるで花火のように燃えている」みたいに映りました。挿絵には、暗闇の草むら越しに赤く燃える甲府の町が描かれています。この他にも、疎開、原爆、引き揚げ、出征など、さまざまな戦争体験が紹介されています。どの話にも大きな挿絵があり、まるで自分がその場にいたかのように感じられます。(小峰書店 4180円)

